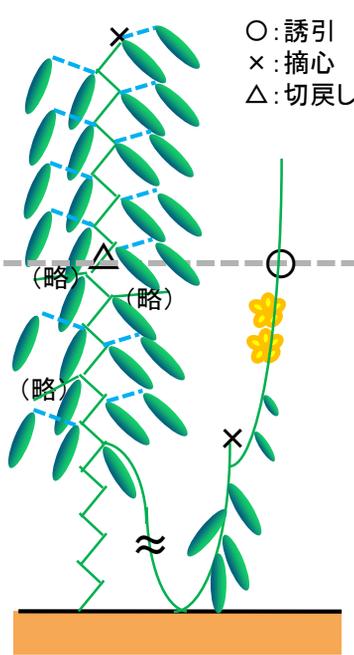


# 施設キュウリの新整枝法 群馬県版更新型つる下ろし整枝法の開発（抑制作型）

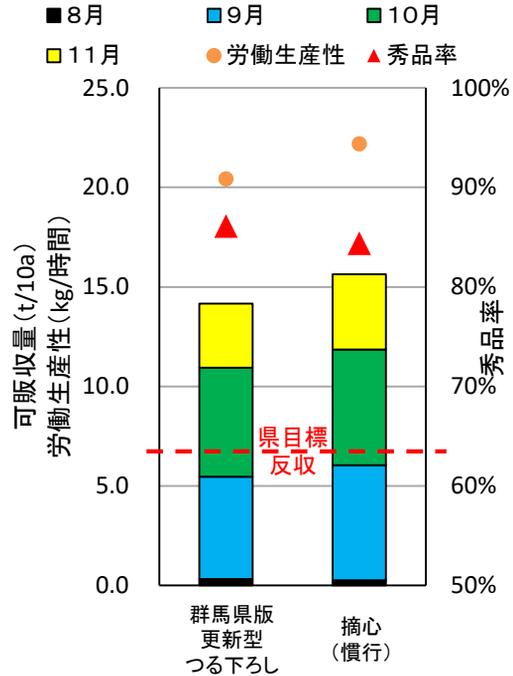
抑制作型の施設キュウリにおいて、初心者でも簡単に取り組み、摘心整枝法と同等の収量性をもつ新整枝法「群馬県版更新型つる下ろし整枝法」を開発しました。誰でも高反収が期待でき、雇用労力の活用やキュウリ1本あたりの生産資材が削減できることで、所得向上と環境にやさしい農業が実践できます。



左：収穫開始時期の様子



群馬県版更新型つる下ろし整枝法の  
中央：樹形イメージ



右：2022年の栽培成績

## 【群馬県版更新型つる下ろし整枝法の要点（抑制作型）】

- (1) 品種は「まりん」を利用します。
- (2) 条間160cm、株間60cmとします。
- (3) 1株あたりの子づる誘引本数は、4本とします。
- (4) 誘引の高さは140～150cmとします。
- (5) 誘引づる1本あたりの葉枚数は、12枚を目安にします。
- (6) 誘引づるの更新（摘心）は、つる下ろしの際に果実（各節第一果）が接地して横たわる場合に行います。更新は1株あたり2本ずつとし、2回に分けて行います。
- (7) 主枝は、早期摘心をせずに収穫可能な限界の高さ20～23節程まで伸ばしてから摘心します。主枝の側枝1節目までを収穫し、誘引づるのある節まで主枝を切り戻します。

※その他は、つる下ろし整枝法に準じます。

### 利用上の留意点

- 「まりん」以外の品種を利用する場合やほ場条件などで著しく徒長させてしまう場合は、適さない場合があるので注意が必要です。
- 週1回の整枝作業が必要となります。